

**第 13 回 環境分科委員会 資料**

**第十三届 环境分科委员会 资料**

**제 13 회 환경분과위원회 자료**

**Байгаль орчны салбар хорооны 13-р хурал.**

**Материал**

**13 заседание**

**подкомиссии по экологии АРАССВА.**

**Материалы.**

## 北東アジア地域自治体連合第 13 回環境分科委員会開催概要

### 1 開催目的

北東アジア地域自治体連合環境分科委員会の会員自治体が実施している環境保全に係る個別プロジェクトの実施結果や提案状況の報告等の情報交換を行い、今後の北東アジア地域における国際環境協力事業の推進方策について協議するもの。

2 開催日 2017年10月12日(木) 9:30～17:00

3 開催場所 オークスカナルパークホテル富山(富山市牛島町11-1)

4 主催 北東アジア地域自治体連合、富山県

5 参加予定自治体 5か国9自治体

日本(2) 山形県、富山県

韓国(3) 江原道、忠清南道、慶尚南道

モンゴル(2) ドルノド県、中央県

ロシア(1) ハバロフスク地方

(オブザーバー)

中国(1) 遼寧省

### 6 全体日程

10月12日(木)

9:30～17:00 第13回環境分科委員会等(場所:オークスカナルパークホテル富山)

18:00～20:00 第13回環境分科委員会歓迎レセプション(場所:オークスカナルパークホテル富山)

10月13日(金)

13:30～17:00 エクスカーション(場所:イタイイタイ病資料館)

### 《参考》

10月13日(金)

9:30～12:30 北東アジア地域漂着物対策関係者会議(場所:オークスカナルパークホテル富山)

# 北東アジア地域自治体連合第13回環境分科委員会

## 会議プログラム

期日 2017年10月12日(木)

場所 オークスカナルパークホテル富山  
2F 鳳凰中の間

9:30	開 会	
9:30	開会あいさつ	磯 部 賢 富山県生活環境文化部長 朴 昌 洙 (パク チャンス) 北東アジア地域自治体連合事務次長
9:40	議 事	議長 長 坂 雄 一 富山県理事・生活環境文化部次長
9:40 ~ 9:45	I 次期コーディネート自治体の選出(協議)	滑 川 哲 宏 富山県生活環境文化部環境政策課長
9:45 ~ 9:50	II 報告事項 1 環境分科委員会の活動状況	滑 川 哲 宏 富山県生活環境文化部環境政策課長
9:50 ~ 10:10	2 2017年個別プロジェクトの実施状況及び活動報告 (1) 個別プロジェクトの概要	滑 川 哲 宏 富山県生活環境文化部環境政策課長
10:10 ~ 10:30	(2) 個別プロジェクトの活動報告 ① 北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業	ユ ミンソン 慶尚南道環境山林局環境政策課主務官
10:30 ~ 10:50	② 海辺の漂着物調査と漂着物アート制作	中 島 浩 薫 富山県生活環境文化部環境保全課長
10:50	休 憩	<10:50~11:05>
11:05 ~ 11:25	③ 北東アジア地域環境ポスター展	滑 川 哲 宏 富山県生活環境文化部環境政策課長
11:25 ~ 11:45	④ 海岸生物調査	滑 川 哲 宏 富山県生活環境文化部環境政策課長
11:45	昼 食	<11:45~13:00>

13:00	Ⅲ 協議事項
13:00 ～ 13:10	1 2018年個別プロジェクトの提案状況 (1) 2018年個別プロジェクトの提案一覧 滑川 哲 宏 富山県生活環境文化部環境政策課長
13:10 ～ 13:25	(2) 2018年提案個別プロジェクトの説明 ① 北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業 滑川 哲 宏 富山県生活環境文化部環境政策課長
13:25 ～ 13:40	② 漂着物の発生抑制に関する環境学習・啓発プログラム(仮) 中島 浩 薫 富山県生活環境文化部環境保全課長
13:40 ～ 13:55	③ 北東アジア地域環境ポスター展 滑川 哲 宏 富山県生活環境文化部環境政策課長
13:55 ～ 14:10	④ 海岸生物調査 滑川 哲 宏 富山県生活環境文化部環境政策課長
14:10 ～ 14:25	⑤ 貝類(カキ)を対象としたブルーカーボン青少年環境教育体験プログラム シン ウソク 忠清南道西海岸気候環境研究所責任研究員
14:25 ～ 14:35	2 環境分科委員会の活動計画 滑川 哲 宏 富山県生活環境文化部環境政策課長
14:35	休 憩 <14:35～15:00>
15:00	Ⅳ 各自治体の先進的な環境施策に関する情報交換
	1 イタイイタイ病の歴史と克服に向けた取り組み(イタイイタイ病資料館) 2 各自治体の先進的な環境施策 ・遼寧省 ・江原道 ・ハバロフスク地方
17:00	閉 会

## 北東アジア地域自治体連合（NEAR）第13回環境分科委員会出席者名簿

### [ NEAR 事務局 ]

所属	部局名	役職	氏名
NEAR 事務局	—	事務次長	パク チャンス
	企画広報部	部長	ナム ゴン
	国際協力部	日本専門員	イ ミョンウン
	国際協力部	駐在官	原田 典久

### [ NEAR 会員 ]

自治体名		部局名	役職	氏名
日 本	山形県	環境エネルギー部循環型社会推進課	廃棄物対策主査	渡 邊 英 治
			主査	渡 邊 一 史
韓 国	江原道	森林環境局環境課	環境政策担当係長	イ ジョンミョン
			主務官	キム ジェヨン
	忠清南道	気候環境緑地局気候環境政策課	チーム長	ユン ソクヨン
		海洋水産局海洋政策課	チーム長	キム ユンソプ
	西海岸気候環境研究所	責任研究員	シン ウソク	
	慶尚南道	環境山林局環境政策課	主務官	ユ ミンソン
モンゴル	中央県	環境観光局	局長	ジヤツァンドルジュ ダツシューヤイフ
			廃棄物・環境汚染専門官	ムバートル ツェビール
	ドルノド県	投資開発政策企画課	環境担当者	バツケツルン エルゲバヤル
ロシア	ハバロフスク地方	地方天然資源省環境保全委員会	委員長	サビトフ アレクセイ
日 本 (コーディネート自治体)	富山県	生活環境文化部	部長	磯 部 賢
			富山県理事・次長	長 坂 雄 一
			課長	滑 川 哲 宏
			課長	中 島 浩 薫

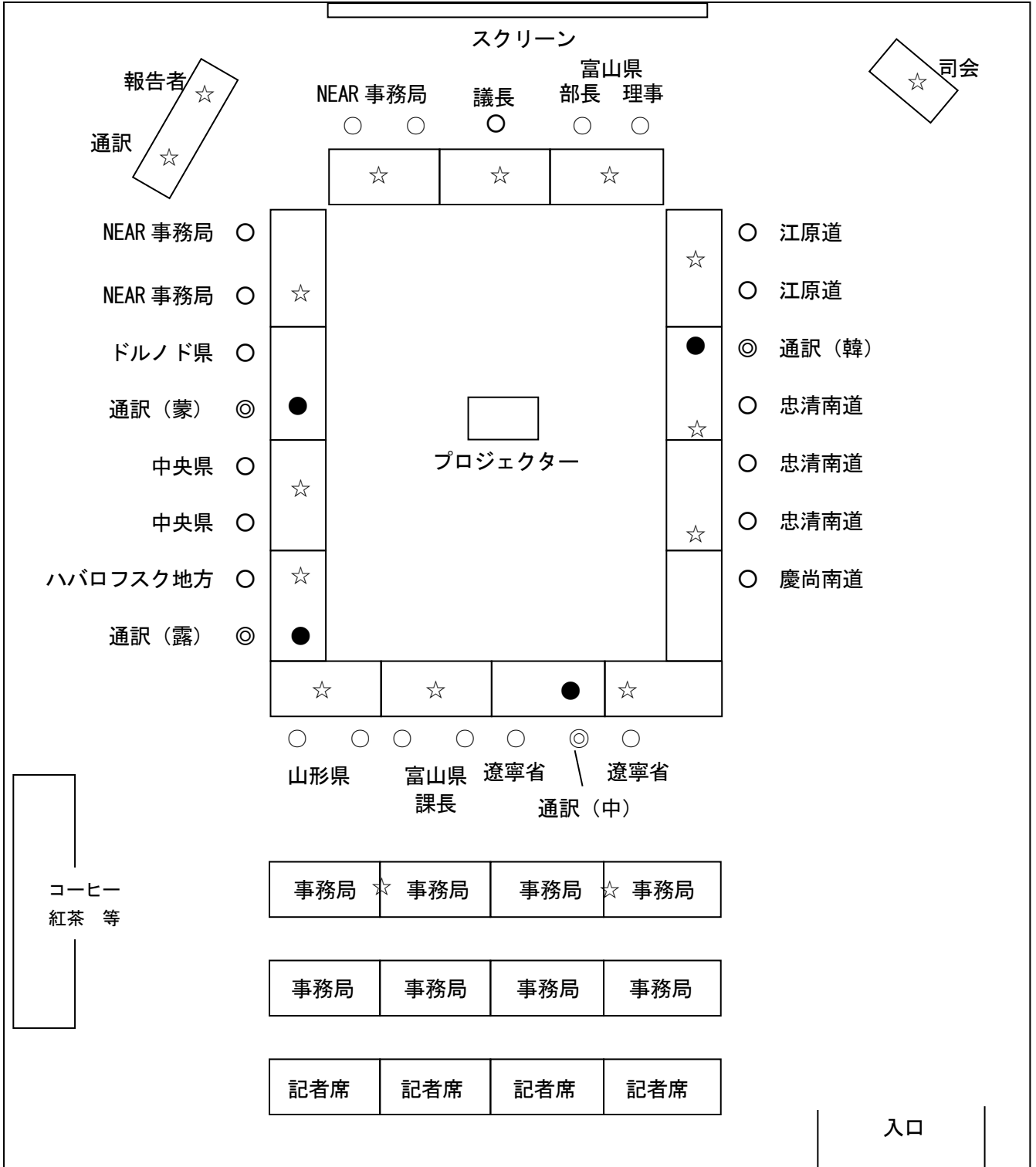
### [ オブザーバー ]

自治体名		部局名	役職	氏名
中 国	遼寧省	環境保護庁	総工程師	黄 礼 湘
		環境保護庁工業環境保護処	副調査研究員	胡 国 生

# 北東アジア地域自治体連合第13回環境分科委員会 配席図

日時：2017年10月12日（木） 9：30～17：00

場所：オークスカナルパークホテル富山 2F 鳳凰中の間



## I 次期コーディネート自治体の選出（協議）

次期コーディネート自治体の選出

滑 川 哲 宏 富山県生活環境文化部環境政策課長

### 1 次期コーディネート自治体の希望調査の実施

- (1) 実施時期 2017年2月
- (2) 調査自治体 環境分科委員会会員自治体（22自治体）

### 2 回答結果

希望自治体 1自治体（富山県）

## II 報告事項

### 1 環境分科委員会の活動状況

滑川 哲宏

富山県生活環境文化部環境政策課長

#### 1 環境分科委員会の報告資料の作成

(1) 作成日 2017年3月

(2) 送付先 北東アジア地域自治体連合会員自治体等

※ 環境委員会の活動をホームページに掲載 [http://www.npec.or.jp/northeast\\_asia/](http://www.npec.or.jp/northeast_asia/)

(3) 資料の内容

##### ア 2016年個別プロジェクトの実施状況

4つの個別プロジェクトの実施状況についての報告

No.	プロジェクト名	提案自治体
1	北東アジア青少年環境グローバルリーダー育成事業	沿海地方・富山県
2	海辺の漂着物調査と漂着物アート制作	富山県
3	北東アジア地域環境ポスター展	江原道
4	海岸生物調査	富山県・沿海地方

##### イ 2017年個別プロジェクトの提案状況

4つの個別プロジェクトの提案状況についての報告

No.	プロジェクト名	提案自治体
1	北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業	慶尚南道・富山県
2	海辺の漂着物調査と漂着物アート制作	富山県
3	北東アジア地域環境ポスター展	富山県
4	海岸生物調査	富山県

##### ウ 環境分科委員会の活動計画

環境分科委員会の今後の活動計画についての提示

#### 2 個別プロジェクトに関する調査の実施

(1) 2017年個別プロジェクトの実施状況調査の実施 (2017年9月)

(2) 2018年個別プロジェクトの提案調査の実施 (2017年9月)

(3) 2018年個別プロジェクトの参加意向調査の実施 (2017年12月(予定))



## 「2016 北東アジア自治体環境専門家会合 in とやま」の概要

2016年5月に本県において開催された「G7 富山環境大臣会合」にあわせて、今後の北東アジア地域における環境保全に向けた連携強化を図るため、日本・中国・韓国・ロシアの自治体や大学等から参加を得て「2016 北東アジア自治体環境専門家会合 in とやま」を開催しました。

大臣会合での議題に取り上げられていた、気候変動、生物多様性、海洋ごみを中心に、自治体レベルで今後取り組むべきことについて確認し合い、北東アジア地域の環境問題の解決に向けた「2016 とやま宣言」を採択しました。また、今後、北東アジア地域自治体連合において宣言に基づく取組みの実施状況の確認を行うことが合意されました。

- 1 開催日時 平成 28 年 5 月 23 日（月）9:00～16:25
- 2 開催場所 ホテルグランテラス富山 4 F 「瑞雲」
- 3 主催 富山県、（公財）環日本海環境協力センター
- 4 参加者 北東アジア地域の自治体関係者及び経済界・学界からの有識者 37 名
- 5 結果概要

基調講演	・「G7 富山環境大臣会合の成果」 <環境省地球環境局長 梶原 成元 氏> ・「富山県の環境政策について」 <富山県知事 石井 隆一>
セッション1、2	「2007とやま宣言」に基づく取組成果、北東アジア地域で新たにに取り組むべき環境保全活動（①気候変動、②生物多様性、③海洋ごみなど）<各国専門家>
総括セッション	「2016 北東アジア自治体環境専門家会合とやま宣言（2016 とやま宣言）」の採択

※ 全セッションの座長は、（公財）環日本海環境協力センター 理事長（元中央環境審議会 会長）鈴木基之氏



2016 北東アジア自治体環境専門家会合 in とやま

# 2016 北東アジア自治体環境専門家会合とやま宣言

## — 2016 北東アジア自治体環境専門家会合 in とやま —

我々、北東アジア地域の経済界、学界及び地方自治体からの会議参加者は、2016年5月23日、日本国富山県において集まり「北東アジア自治体環境専門家会合 in とやま」を通じて、北東アジア地域で取り組まれてきた国際環境協力事業が大きな成果を収めており、今後も世界共通の課題となっている地球環境問題などの解決や北東アジア地域の豊かな環境を将来の世代に引き継ぐために協力することの重要性を認識し、環境保全に連携して取り組んでいくことを宣言する。

### 1 共通認識

我々は、以下のことを共通認識として確認した。

- (1) 我々は、2007年12月、第9回日中韓三カ国環境大臣会合(開催地；富山県)に併せて開催した「北東アジア環境パートナーズフォーラム in とやま」において採択した「北東アジア環境パートナーシップとやま宣言」に基づき「広域的な環境モニタリング体制及びネットワークの構築」、「環境保全のための技術情報の共有」、「国際環境協力を担う人材の育成」に関連する国際環境協力事業に積極的に取り組み、大きな成果を収めていることを認識した。
- (2) 我々は、2016年5月15日及び16日に日本国富山県で開催された「G7富山環境大臣会合」において、気候変動、生物多様性、海洋ごみなどの地球環境問題への対応をはじめ、都市の果たし得る役割の重要性が高まってきていることが再確認されたことなどを踏まえ、中央政府レベルによる対策だけでなく地方や自治体レベルでも取り組む必要があることを認識した。
- (3) 我々は、北東アジア地域が、人口や経済の面から全世界の大きな部分を占め、地球環境への負荷の削減について大きな責任を有していることを確認した。また、北東アジア地域の豊かな環境資源を将来の世代に引き継ぎ、持続可能な社会を実現するためには、国境を越えて、様々な立場の人々が環境保全の重要性を理解し、互いに手を携えて行動していくことが必要であることを認識した。

### 2 個別的事項

我々は、上記の共通認識に基づき、自らが参加し得る範囲において、次の取組みを進める。

#### (1) 地球環境問題への積極的な貢献

気候変動など地球規模の問題について、北東アジア地域における影響を把握するとともに、それぞれの地域で活動している環境保全の手法や各々が保有している有益な情報・データを共有化するよう努める。

- a 気候変動、生物多様性については、地方自治体、研究機関などが連携し、海岸における生息生物の分布や気候変動の影響に敏感な海岸生物を指標生物とした生息状況を調査し、北東アジアにおける実態把握に努める。
- b 海洋ごみについては、その実態を把握するため、北東アジア地域の地方自治体などが連携して、海岸漂着物を今後も調査する。また、G7富山環境大臣会合で採択された「富山物質循環フレームワーク」の3R促進の観点からも、それぞれの地域においてごみの発生抑制などの取組みを推進する。特に、生態系などへの影響が懸念されるマイクロプラスチック問題に対処するためにも、レジ袋、トレイ、ペットボトルなどの発生抑制と回収・リサイクルに努める。さらに、水質汚濁についてもそれぞれの地域において実態把握を行い、水環境保全に努める。
- c 黄砂・自動車排出ガスなどの大気汚染や森づくりなどの自然環境の保全については、北東アジア地域の各地方自治体で課題となっており共通する課題である。今後もそれぞれの地域において調査を行うなど実態把握等に努めるとともに、改善に向けて技術協力を進める。

#### (2) 市民協働、環境教育の推進

グローバルな視点で地域の環境保全活動をリードできる人材の育成を目指し、地域の市民との協働で活動を進めるとともに、将来の世代の育成に努める。

- a 気候変動、生物多様性、海洋ごみなどの調査や海岸清掃、森づくりなどの環境保全活動は、市民との協働事業として実施し、市民の一層の参加を促すとともに、青少年や子どもたちの環境教育にも活用する。
- b 北東アジア地域の環境保全活動の主体となるリーダーを育成するため、青少年を対象に、環境問題に関するディスカッション、市民と連携した環境保全に関する取組みを体験する交流プログラムなどを実施する。
- c 大学などの研究機関において、社会科学、自然科学などの観点から進められている環境負荷を低減するための研究や技術開発を進め、社会に還元するとともに、環境保全に寄与する人材の育成に努める。

#### (3) 国際的な対話の推進

地球規模の環境問題という共通の課題に対し、北東アジア地域において先導的な役割を果たすため、グローバルパートナーシップのもと、今後も対話を継続するよう努める。

- a 環境保全をテーマとした国際フォーラム等については、ロシア沿海地方で「国境のない自然」や日本富山県で海洋ごみや生物多様性に関する北東アジア地域の関係機関会議などが実施されており、環境保全技術などに関して、今後も意見交換等を進める。
- b 北東アジア地域で実施されている人工衛星によるリモートセンシング技術を活用した水質や藻場の調査など新たな環境調査手法や先進的な環境施策などに関する情報交換を進め、ホームページなどで世界に積極的に発信する。
- c 北東アジア地域自治体連合環境分科委員会を活用するなど、環境保全対策を進めるための政策対話を継続し、北東アジア地域での環境対策に関するイニシアティブを発揮するとともに、この宣言の実施状況について定期的に確認していくこととする。

この会合を契機に、北東アジア地域の先駆的な取組みの輪が世界中に拡がり、地球上のすべての人々が地球環境と調和しながら健康で豊かな暮らしを送り続けていくことを期待する。

2016年5月23日

「2016北東アジア自治体環境専門家会合 in とやま」会議参加者一同

## II 報告事項

### 2 個別プロジェクトの実施状況及び活動報告

#### (1) 個別プロジェクトの概要

滑川 哲宏

富山県生活環境文化部環境政策課長

### 1 2017年提案個別プロジェクト

#### (1) 提案プロジェクト

No.	プロジェクト名	提案自治体
1	北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業	慶尚南道・富山県
2	海辺の漂着物調査と漂着物アート制作	富山県
3	北東アジア地域環境ポスター展	富山県
4	海岸生物調査	富山県

## (2) 参加意向調査結果 (◎：提案自治体 ○：参加意向自治体)

プロジェクトNo.		1	2	3	4
自治体名		活動リーダー育成	漂着物/アート	ポスター	生物調査
中国	遼寧省	○	—	○	○
	黒龍江省	○	—	○	—
	山東省	—	—	—	—
	河北省(秦皇島市)	—	—	—	—
日本	青森県	—	—	—	—
	秋田県	—	○	—	—
	山形県	—	○	—	—
	新潟県	—	—	—	—
	富山県	◎	◎	◎	◎
	石川県	—	○	—	○
	福井県	—	○	—	○
	京都府	—	—	—	—
	兵庫県	—	—	—	—
	鳥取県	—	○	—	—
	島根県	—	○	—	—
	山口県	—	○	—	—
	福岡県	—	—	—	—
	佐賀県	—	○	—	—
長崎県	—	○	—	—	
韓国	江原道	○	○	○	—
	忠清南道	○	○	○	○
	慶尚南道	◎	○	—	○
蒙古	セレンゲ県	—	—	—	—
	中央県	—	—	—	—
ロシア	ブリヤート共和国	—	—	—	—
	サハ共和国	—	—	—	—
	ザバイカリエ地方	—	—	—	—
	沿海地方	○	○	○	○
	ハバロフスク地方	○	○	○	○
	アムール州	—	—	—	—
	イルクーツク州	—	—	—	—
	サハリン州	—	—	—	—
トムスク州	○	—	○	—	
参加意向自治体数		4か国 9自治体	3か国 15自治体	4か国 8自治体	4か国 8自治体

## II 報告事項

### 2 個別プロジェクトの実施状況及び活動報告

#### (2) 個別プロジェクトの活動報告

##### ① 北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業

ユ ミンソン

慶尚南道環境山林局環境政策課主務官

#### 1 目的

北東アジア地域の青少年に対して、環境問題に関する意見交換や環境保全活動を体験する機会を提供し、国際交流を通じて、この地域の環境保全に取り組む人材を育成する。

#### 2 事業内容

(1) 実施時期 2017年8月17日(木)～18日(金)

(2) 実施場所 大韓民国

(3) 実施方法 大韓民国慶尚南道統営市 RCE統営 ほか

ア テーマ：「国境のない自然環境保全活動の実践」

イ 活動内容：

- ・各参加自治体からの活動発表
- ・ポスターセッション
- ・自然(湿地、池、動植物など)を活用した排水の浄化設備の視察、草木染体験
- ・「2017 慶尚南道環境宣言文」の発表



活動発表



ポスターセッション

ウ 参加自治体(4か国9自治体)

中国：遼寧省、黒龍江省

日本：富山県

韓国：江原道、忠清南道、慶尚南道

ロシア：沿海地方、ハバロフスク地方、トムスク州

エ 参加者数 中高生 59名

オ 年間計画 5月 参加者募集

8月 事業実施

カ その他

実施状況の詳細は、下記、ホームページに掲載予定

([http://www.npec.or.jp/northeast\\_asia/youth/index.html](http://www.npec.or.jp/northeast_asia/youth/index.html))

## II 報告事項

### 2 個別プロジェクトの実施状況及び活動報告

#### (2) 個別プロジェクトの活動報告

##### ② 海辺の漂着物調査と漂着物アート制作

中 島 浩 薫

富山県生活環境文化部環境保全課長

#### 1 目的

- ・ 人工物による海辺の汚染実態を継続的に把握することにより、海洋環境保全対策、廃棄物対策等を推進するための基礎資料とすること。
- ・ 海岸漂着物を利用したアート作品の制作などを通して、子供たちが海岸漂着物の実態や海洋環境保全について学習し、その発生源となるごみを出さないための行動を自ら実践していくきっかけとすること。
- ・ 地域住民の調査への参加及びアート作品の制作体験を通して「ごみを捨てない心、海を守ろうとする心を育む」という共通意識を醸成し、環境教育を推進すること。

#### 2 事業内容（実施状況）

##### (1) 海辺の漂着物調査

ア 実施時期：2017年秋季

イ 実施場所：各参加自治体の海岸

ウ 実施方法

- 調査主体 各参加自治体が小学生、中学生、高校生及び民間団体の協力を得て実施
- 調査回数 各地点ごとに年1回
- 調査方法
  - ・ 海水浴場等に、波打ち際から陸地方向へ連続的に3区画程度の調査区画（1区画 10m×10m）を設定する。
  - ・ 設定した調査区画内の漂着物を全て拾い集め、種類別に分類し、個数及び重量を測定する。
  - ・ 海岸漂着物などに関する海洋環境保全学習を併せて実施するよう努める。
  - ・ マイクロプラスチック（直径5mm以下のプラスチックごみ）の試行調査を実施する（任意参加）。調査区画付近で砂約1Lを採取し、ふるいでマイクロプラスチックを分離して数を計測する。
- 調査結果
  - ・ 各参加自治体から本県に提出された調査結果は、（公財）環日本海環境協力センターがとりまとめを行い、報告書等を作成する。

エ 参加自治体（予定）

富山県、秋田県、山形県、石川県、福井県、京都府、兵庫県、鳥取県、島根県、山口県、佐賀県、長崎県、江原道、忠清南道、慶尚南道、沿海地方、ハバロフスク地方



富山県における実施状況

(2) 漂着物アート制作

ア 実施時期：通年

イ 実施場所：各参加自治体内の会場等

ウ 実施方法

各参加自治体が地元の小中高等学校、民間団体等の参加、協力を得て漂着物アート制作体験会等を実施

エ 参加自治体（予定）

富山県、ハバロフスク地方、沿海地方

（参考 2016 年度参加自治体：富山県、福井県、沿海地方、ハバロフスク地方）



富山県における漂着物アート制作の実施状況

## II 報告事項

### 2 個別プロジェクトの実施状況及び活動報告

#### (2) 個別プロジェクトの活動報告

##### ③ 北東アジア地域環境ポスター展

滑川 哲宏

富山県生活環境文化部環境政策課長

#### 1 目的

北東アジア地域の次代を担う子どもたちから「環境の保全」をテーマとしたポスターを募集し、優秀作品を展示することにより、市民の北東アジア地域の環境保全意識を一層深める機会とする。

#### 2 事業内容（予定）

(1) 実施時期 2017年10月16日～22日

(2) 実施場所 中華人民共和国黒龍江省

ハルビン市永泰世界（永泰城（えいたいじょう）ショッピングセンター内）

#### (3) 実施方法

ア 参加自治体（4か国7自治体）

中国：黒龍江省

日本：富山県

韓国：江原道、忠清南道

ロシア：沿海地方、ハバロフスク地方、トムスク州

イ 年間計画

6月 参加自治体へ作品送付依頼

7月 （各自治体で環境ポスターの作品募集、審査）

7月～9月 参加自治体から作品送付

10月 環境ポスター展開催

12月～ 参加自治体へ作品返却

ポスター展の開催結果や作品をホームページに掲載

#### (4) その他

実施状況の詳細は、下記のホームページに掲載予定

([http://www.npec.or.jp/northeast\\_asia/](http://www.npec.or.jp/northeast_asia/))



## II 報告事項

### 2 個別プロジェクトの実施状況及び活動報告

#### (2) 個別プロジェクトの活動報告

##### ④ 海岸生物調査

滑川 哲宏

富山県生活環境文化部環境政策課長

#### 1 目的

北東アジア地域の海洋生物多様性の保全に向けて、各地域に生息する生物に関する情報の収集、指標生物の生息調査を実施する。本調査を通じて、一般市民・子供たちの海の生物への興味を深めてもらい、環境保全・生物多様性保全の意識高揚を図る。

#### 2 事業内容（実施状況）

(1) 実施時期：平成 29 年 8 月～9 月（連絡会議 11 月 30 日～12 月 1 日予定）

(2) 実施場所：各参加自治体の海岸

(3) 実施方法

- ・地球温暖化や外来生物に係る指標生物の存在有無の確認
- ・海の生物に関する知識を有する調査機関、NGO/NPO や専門家が主体となり、一般市民の参加のもと、海岸の生物を収集し、観察生物名・写真を記録
- ・調査結果は、（公財）環日本海環境協力センターが取りまとめ、ウェブサイトを通じて情報発信

(4) 参加自治体 （4 か国 8 自治体）

中 国：遼寧省

日 本：富山県、石川県、福井県

韓 国：忠清南道、慶尚南道

ロシア：沿海地方、ハバロフスク地方

（参考 2016 年度参加自治体：富山県、福井県、山口県、忠清南道、慶尚南道、沿海地方、ハバロフスク地方）



富山県における実施状況

### Ⅲ 協議事項

#### 1 2018年個別プロジェクトの提案状況

##### (1) 2018年個別プロジェクトの提案一覧

滑川 哲 宏

富山県生活環境文化部環境政策課長

#### 2018年提案個別プロジェクト

No.	プロジェクト名	提案自治体
1	北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業	富山県
2	漂着物の発生抑制に関する環境学習・啓発プログラム(仮)	富山県
3	北東アジア地域環境ポスター展	沿海地方
4	海岸生物調査	富山県
5	貝類(カキ)を対象としたブルーカーボン青少年環境教育プログラム	忠清南道

※ 各プロジェクトについては、予算要求前の事業イメージであり、今後、変更の可能性がります。

### Ⅲ 協議事項

#### 1 2018年個別プロジェクトの提案状況

##### (2) 2018年提案個別プロジェクトの説明

###### ① 北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業

滑川 哲宏 富山県生活環境文化部環境政策課長

#### 1 目的

自治体・経済界・学界が連携し、青少年に対して北東アジア地域における環境問題を直に体験（環境ボランティア活動）する機会を提供することにより、現状への認識を高めるとともに、国際環境協力に対する理解を深め、自ら行動できる人材を育成することを目的とする。

#### 2 事業内容

(1) 実施時期 2018年8月頃

(2) 実施場所 中国遼寧省（予定）

(3) 実施方法等

1年ごとに各自治体が持ち回りで開催

開催自治体が毎年テーマを選定し、実施

(4) 年間計画

2018年5月頃 参加者募集

2018年8月 事業実施

(5) 期待される成果

- ・ 北東アジア地域の環境問題に対する理解や共通認識が深まるとともに、環境保全活動への参加意欲の向上が期待できる。また、ともに取り組んでいくといった連帯感が生まれ、国際的なネットワークの構築につながる。
- ・ 環境問題解決に主体的に参画し、提案できる人材の育成が期待できる。

#### 3 参加自治体への協力要請事項

(1) 協力要請の内容

開催自治体 ・ テーマの企画、参加者の募集、ワークショップ等の開催

・ 地元の経済界や学界への協力要請

参加自治体 ・ 参加者の募集・派遣

(2) 経費負担の要請

ア 経費負担の有無

あり

イ 経費負担の概要

・ 開催自治体への渡航費は参加自治体が負担する。

・ 現地滞在費及びワークショップ等の開催費用については、開催自治体が負担する。

(3) 参加要請自治体

すべての北東アジア地域自治体連合会員ほか

### Ⅲ 協議事項

#### 1 2018年個別プロジェクトの提案状況

##### (2) 2018年提案個別プロジェクトの説明

##### ② 漂着物の発生抑制に関する環境学習・啓発プログラム(仮)

中 島 浩 薫 富山県生活環境文化部環境保全課長

#### 1 目的

漂着物の発生抑制に資するため、子供たちや地域住民「ごみを捨てない心、海の環境を守ろうとする心を育む」という共通意識を醸成し、環境教育を推進すること

#### 2 事業内容

マイクロプラスチックも含め、漂着物の発生抑制をより重視し、環境教育に力点を置いた内容とする。

#### 3 期待される成果

「ごみを捨てない心、海洋等の環境を守ろうとする心を育む」という住民の環境保全に対する意識の高揚

#### 4 参加自治体への協力要請事項

(1) 協力要請の内容：未定（これからの議論を踏まえたものとする。）

(2) 経費負担の要請：未定（これからの議論を踏まえたものとする。）

(3) 参加要請自治体：

一部の連合会員等（連合会員のうち沿岸部又は沿岸に通じる河川流域の自治体）

(参考) 海辺の漂着物調査と漂着物アート制作の様子



<海岸での漂着物の調査>



<海洋ごみに関する学習>



<漂着物アートの製作>



<作品の展示>

### Ⅲ 協議事項

- 1 2018年個別プロジェクトの提案状況
- (2) 2018年提案個別プロジェクトの説明

- ③ 北東アジア地域環境ポスター展

タラセンコ ユーリー 沿海地方天然資源・環境保全部戦略的発展・投資活動・予算管理課長

- 1 目的

北東アジア地域の次代を担う子どもたちから「環境の保全」をテーマとしたポスターを募集し、優秀作品を展示することにより、市民の北東アジア地域の環境保全意識を一層深める機会とする。

- 2 事業内容

- (1) 実施時期

2018年10月

- (2) 実施場所

ロシア連邦沿海地方

- (3) 実施方法

- ・各参加自治体内で子どもたち（小中学生を対象）から作品募集、審査
- ・各参加自治体が優秀作品を開催自治体に送付
- ・開催自治体で各参加自治体の作品展示、普及啓発を実施

- (4) 年間計画

4月～7月 参加自治体との連絡調整、作品募集、送付

10月 環境ポスター展の開催

1～3月 作品返送

- (5) 期待される成果

北東アジア地域の環境問題に対する理解や共通認識が深まる。

- 3 参加自治体への協力要請事項

- (1) 協力要請内容

- ア 開催自治体

- ・参加自治体への開催通知、優秀作品の送付依頼
- ・開催自治体内で作品募集、審査
- ・参加自治体から送付された作品でポスター展を開催、普及啓発の実施
- ・作品を参加自治体に返却

- イ 参加自治体

- ・参加自治体内で作品募集、審査
- ・優秀作品（タイトル、作者のメッセージ等とあわせて）を開催自治体に送付

- (2) 経費負担の要請

- ア 経費負担の有無

あり

- イ 経費負担の概要

- ・ポスター展の開催や普及啓発等の費用は、開催自治体が負担する。
- ・参加自治体から開催自治体への作品の送料は、参加自治体が負担する。
- ・開催自治体から参加自治体への作品の返送の費用は、開催自治体が負担する。

- (3) 参加要請自治体  
すべての北東アジア地域自治体連合会員ほか

### Ⅲ 協議事項

- 1 2018 年個別プロジェクトの提案状況
- (2) 2018 年提案個別プロジェクトの説明
- ④ 海岸生物調査

滑川 哲宏 富山県生活環境文化部環境政策課長

#### 1 目的

北東アジア地域の海洋生物多様性の保全に向けて、各地域に生息する生物に関する情報の収集、指標生物の生息調査を実施する。本調査を通じて、一般市民・子供たちの海の生物への興味を深めてもらい、環境保全・生物多様性保全の意識高揚を図る。

#### 2 事業内容

- (1) 実施時期：年 1 回程度
- (2) 実施場所：参加自治体の海岸
- (3) 実施方法等：
  - ・ 地球温暖化等に係る指標生物の存在有無の確認
  - ・ 海の生物に関する知識を有する調査機関、NGO/NPO や専門家が主体となり、一般市民の参加のもと、海岸の生物を収集し、観察生物名・写真を記録
  - ・ 調査結果は、(公財)環日本海環境協力センターが取りまとめ、ホームページを通じて情報発信
- (4) 年間計画：
  - 6～7月 参加者の募集
  - 7～8月 調査の実施
  - 11月頃 連絡会議を開催し、各機関からの結果報告
- (5) 期待される成果
  - ・ 海岸に生息する海洋生物の北東アジア地域での分布状況の把握
  - ・ 指標生物の生息範囲の把握
  - ・ 海洋生物多様性、海洋環境の保全に対する意識の高揚

#### 3 参加自治体への協力要請事項

- (1) 協力要請の内容
  - ・ 本調査を実施する調査機関、NGO/NPO もしくは専門家の選定
  - ・ 調査機関との調査実施、結果報告に関する連絡調整
- (2) 経費負担の要請
  - ア 経費負担の有無：無し（経費の掛からない範囲で実施）
  - イ 経費負担の概要
- (3) 参加要請自治体
  - 一部の連合会員（連合会員のうち内陸部の自治体を除く。）

# 1 2018年個別プロジェクトの提案状況

## (2) 2018年提案個別プロジェクトの説明

- ⑤ 貝類（カキ）を対象としたブルーカーボン青少年環境教育体験プログラム  
シン ウソク 忠清南道西海岸気候環境研究所責任研究員

### Ⅲ 協議事項

#### 1 目的

青少年の沿岸環境教育体験を通じて、沿岸生態系ブルーカーボンの重要性を認識し、環境教育及び沿岸生態環境保全の重要性を改めて認識する。

#### 2 事業内容

##### (1) 実施時期

2018年2月～12月（約10か月）

##### (2) 実施場所

参加自治体の海岸

##### (3) 実施方法

カキ（貝など）の稚貝を放流し、その後成貝になるまで成長させることにより、水中の炭素が体の中に貯蔵されていく炭素固定過程やその固定量を調べて理解を深める。

##### ① 貝類の稚貝放流後成貝採集を通じたブルーカーボンの概念の教育体験

- 稚貝を放流した後、ある程度成貝になってから採集し、その成長を確認する。
- 貝類の成長に伴って自然にブルーカーボン固定に対する概念理解と観察学習を誘導する。



<稚貝放流(左) 後、成貝採集(右)>

##### ② 貝類の様々な自然浄化機能学習

- 沿岸生態系の中で貝類は水中にいる懸濁物質を濾過しながら餌を供給し、水質浄化機能をしている。
- これに対する簡単な実験を通じて、沿岸の干潟で貝類の水質環境改善に対する役割を理解し、生態系保全の意味が分かる学習をする。





〈カキによる水槽内濁水浄化機能実験〉

③ 貝類採集体験を通じて収穫した物で料理し試食体験

- 直接取った貝類で美味しい料理を作って試食する。  
(炭素循環(養殖(生産) → 採集(漁獲) → 飲食(消費))に対する学習)



〈取った貝類で美味しく料理し、試食(五感満足)〉

④ 地域の貝塚や貝塚博物館を観覧

- 地元の貝塚を見学し、長い年月の間貯蔵されたブルーカーボンの現場学習
- 貝塚の炭素隔離を活用し、ブルーカーボンの概念を理解し、周辺環境及び実生活に適用できる方法について討論する。



〈貝塚(ブルーカーボン貯蔵)見学〉

(5) 期待される成果

- 体験活動及び教育学習を通じて気候変化及び海洋環境保全に対する認識が向上する。
- 漁村体験活動を通じて捨てられる貝殻に対するブルーカーボンの認識転換及び広報・教育に積極的に活用する。
- 貝類の成分、含量分析などのデータを分析し、次期の二酸化炭素の低減政策策定の基礎資料として活用する。

3 参加自治体への協力要請事項

(1) 協力要請内容

- ・ 本調査を海岸の選定
- ・ 実施する調査機関、NGO/NPO もしくは専門家の選定
- ・ 調査機関との調査実施、結果報告に関する連絡調整

(2) 経費負担の要請

- ① 経費負担の有無  
あり
- ② 経費負担の概要

現場調査費用及び体験キット購入費用など

(3) 参加要請自治体

一部の連合会員 (連合会員のうち内陸部の自治体を除く。)

### Ⅲ 協議事項

#### 2 環境分科委員会の活動計画

滑川 哲宏

富山県生活環境文化部環境政策課長

#### 環境分科委員会の活動計画（案）

年 月	内 容
2017年9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>2017年個別プロジェクト実施状況及び2018年提案個別プロジェクトの調査 コーディネート自治体が、個別プロジェクトの実施状況を確認した。併せて、2018年に実施予定の個別プロジェクトの提案の意向を確認した。</li> <li>2018年提案個別プロジェクトの取りまとめ コーディネート自治体が、提案のあった2018年個別プロジェクトを取りまとめた。</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>第13回 環境分科委員会開催（2017年10月12日）</li> <li>2018年提案個別プロジェクトの参加要請 環境分科委員会において提案自治体が参加自治体に対してプロジェクトの内容を説明し、参加を要請する。</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>2018年個別プロジェクトへの参加意向調査 コーディネート自治体が、北東アジア地域自治体連合の会員自治体に個別プロジェクトへの参加意向の確認を行う。</li> </ul>
2018年1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>2018年個別プロジェクト参加意向調査結果の取りまとめ コーディネート自治体が、参加意向調査結果を取りまとめ、2018年個別プロジェクトの提案自治体へ送付する。</li> </ul>
(適宜実施)	<ul style="list-style-type: none"> <li>提案自治体と参加意向自治体が個別プロジェクトの実施に向けて協議する。</li> <li>合意があった場合、適宜個別プロジェクトを実施する。</li> </ul>
2018年9月頃～	<ul style="list-style-type: none"> <li>2018年個別プロジェクト実施状況及び2019年提案個別プロジェクトの調査 コーディネート自治体が、個別プロジェクトの実施状況調査を行う。併せて、2019年に実施予定の個別プロジェクトの提案調査を行う。</li> </ul>
2019年3月頃	<ul style="list-style-type: none"> <li>報告資料の作成（※環境分科委員会は隔年開催）</li> </ul>

# イタイイタイ病の歴史と克服に向けた取り組み



## イタイイタイ病

- ・神通川流域で起きた日本の四大公害病の一つ



- ・大正時代頃(1910年代頃)から発生
- ・患者が「イタイ、イタイ」と泣き叫ぶことからこの名が付いたといわれている
- ・神岡鉱山(岐阜県)から排出されたカドミウムが原因



※市町村名は2005(平成17)年の市町村合併前のものです。

## イタイタイ病の被害と公害防止の取組

### ◆ イタイタイ病に関する主な動き

○明治中頃～ 神通川流域の農漁業被害が新聞報道

○大正時代  
～昭和初期 **イタイタイ病が発生**

○1966年 **住民が「イタイタイ病対策協議会」を結成**

○1967年 県が神通川流域住民の健康実態調査を開始  
県が独自に初めてイタイタイ病患者を認定

○1968年 イタイタイ病弁護団を結成、1次訴訟提訴

○1971年 富山地裁判決 患者側勝訴、企業側控訴

○1972年 **名古屋高裁金沢支部判決 患者側全面勝訴**

#### <住民と原因企業との取決め>

被害者への賠償、公害防止、汚染土壌の復元に関する 誓約書、協定書を締結

○1979年 国による流域住民の健康調査に加え、県単独で対象者を拡大

～以降、発生源対策、汚染農地対策等を実施～

○2013年 **被害団体と原因企業の間で全面解決合意**

#### イタイタイ病について

- ・ 腰や肩、ひざなどの全身の痛み  
→ 骨折を繰り返す。
- ・ 寝こんでからも意識は正常。  
「イタイ、イタイ」と苦しみ、衰弱し死に至る。
- 性別…圧倒的に女性に多く発症
- 年齢…35歳から更年期頃にかけて、  
特に、出産経験者に多く発症

## イタイタイ病の克服と未来志向型の情報発信

### 住民の取組み

#### ◆ 立入調査の実施

公害防止協定に基づき、1972年以来毎年、住民や専門家が立入調査を実施。



被害団体と原因企業の間で全面解決合意(2013.12)

### 企業の取組み

#### ◆ 設備の改善

排出設備の改善・増強、緊急貯水槽設置



住民、企業、行政の徹底した努力で、環境被害を克服



清流を取り戻した神通川



暮った肥沃な農地

### 県の取組み

#### ◆ 流域住民の健康調査(1967年～)

- ・ 国調査に加え県単独で対象者を拡大(1979年～)
- △(50歳以上) △(45歳以上)

#### ◆ 汚染農地対策の実施(1980年～2012年)

- ・ 汚染農地1,686.2ha
- ・ 2012年に復元工事完成(33年間、総事業費407億円)

#### ◆ イタイタイ病資料館の設置(2012年)

- ・ イ病の教訓に学び、国内外に情報発信。
- (日、英、中、韓、ロ、仏など8ヶ国語のパネルを作成)
- 環境と健康を大切にするライフスタイルの確立を目指す。



天皇皇后両陛下ご視察(2015.10.24)



G7環境大臣会合時視察(2016.5.16)

## IV 各自治体の先進的な環境施策に関する情報交換

### 遼寧省農村部における生活ごみの分別処理

1. 自治体・所属：遼寧省環境保護庁
2. 発表者：黄 礼湘 (Huang Lixiang)
3. 要旨：
  - (1) 遼寧省農村部における生活ごみの基本的な状況
  - (2) 農村部で実施した生活ごみの分別処理の成果
    - ① 遼寧省農村部におけるごみの減量・分別処理に関する積極的な模索
    - ② 遼寧省新賓県における農村部ごみの減量と分別処理
  - (3) 農村部における生活ごみの分別処理で分かったこと
    - ① 体制・メカニズムの確立と模索
    - ② 行政の役割
    - ③ メディアの在り方
    - ④ 技術や人員などの確保

#### IV 各自治体の先進的な環境施策に関する情報交換

##### 2018 平昌 (PyeongChang) 低炭素グリーンオリンピック開催

1. 自治体・所属：江原道森林環境局環境課
2. 発表者：イ ジョンミョン (LEE Jong Myung)
3. 要旨：
  - (1) 2018 平昌冬季オリンピック広報
  - (2) 低炭素グリーンオリンピック推進主要事項
    - ① 環境にやさしい交通インフラの構築
      - 高速鉄道建設・運営を通じて、約 6,654 トンの温室効果ガス削減
      - 電気自動車の運行インフラ構築(電気自動車 150 台、充電ステーション 26 か所)
    - ② 環境にやさしいスタジアム設計・運営
      - スタジアムグリーン建築・エネルギー効率の評価認証に温室効果ガスの排出最小化
      - 競技場施設の再生可能エネルギーの適用 (総使用量の 12%)
    - ③ 廃棄物の排出ゼロ化
      - 最大限の廃棄物リサイクル化による廃棄物排出量の最小化
      - 大会運営に関連したレストラン・収益会社の廃棄物低減政策への参加実施

#### IV 各自治体の先進的な環境施策に関する情報交換

##### ハバロフスク地方での環境年

1. 自治体・所属：ハバロフスク地方天然資源省環境保全委員会

2. 発表者：サビトフ・アレクセイ (Sabitov Aleksei)

3. 要旨：

2017年、ロシア連邦大統領が、環境及び特別保護自然地区の年（環境年）として宣言した。それに関連して、国レベル、地方レベルで様々な計画が決定された。

ハバロフスク地方政府の主な活動方針の一つは、環境を改善することによって、地域住民の生活の質を向上させることである。

環境年では、環境保全・環境安全の分野での活動が強化され、ハバロフスク地方政府によって承認された計画の中に、自然保護活動、教育事業、式典、大規模なイベント、特別保護自然地区の利用及び保護に関する事業などの60もの大事業が含まれている。

アムール川 (Amur River) とウスリー川 (Ussuri River) の水質改善のために大きなプロジェクトが行われている。コムソモリスク・ナ・アムーレ市 (Komsomolsk-na-Amure、瓦倫) やハバロフスク市では、下水処理施設の再建、増設が行われ、処理施設の効果や信頼性が高まっている。

大気保全対策も実施されている。環境への影響を抑制し、利用可能な最善技術へ移行するため、ハバロフスク第1号熱電供給発電所（発電の他、地域集中暖房用スチーム・熱湯の供給も同時に行っている）の燃料を天然ガスに切り替える事業がある。このことによって、発電所の全体の廃棄物を15%削減し、ハバロフスク市の大気環境が改善される。

環境への負荷を軽減するために、木材関係の工場では、廃材から木質ペレットの生産を始めた。貴金属採掘を行っている会社では、鉱物の採掘の過程で、技術的に環境負荷を削減するために、省エネ・省資源の生産技術を取り入れた。航空機工場では、排出ガスと粉じんの捕集装置の修理と更新が行われ、大気保全に関する環境法令の最大許容排出量の数値を確実に守ることが可能になった。

人間活動によって破壊された生態系を回復するために、森林復元事業が毎年行われている。今年も、5千ヘクタールの土地に苗を植え、5万ヘクタールの土地で森林の自然再生を促進する。このような活動によって、今後10～15年の間に、伐採や火災によって森林がなくなった土地の面積を少なくすることができる。

ハバロフスク地方では、住民が自然を大切にすることを目的とした環境教育が計画的に行われている。

2017年6月、青少年のために、観光と環境を統合させた「エコミル」(EcoMir) というプログラムがスタートした。参加者たちは地元について知ることによって、地元の施設や現象だけではなく、動植物の豊かさと多様性についての知識も得ることができた。

毎年、ハバロフスク地方のすべての学校では、廃棄物に関する講演、授業が実施されている。町、河川敷、海岸の清掃活動、日本海沿岸の漂着物調査、海の生物多様性調査なども行われている。

ここ数年間、継続的に実施されている廃棄物を利用した作品のエココンクールの人気が高い。工作教

室に参加する青少年と保護者は、廃棄物を再利用して、日常生活にも使えるものを作成している。

今年、ハバロフスク市では、17 か所に乾電池を回収するボックスが設置され、270kg の電池が回収された。学校にも乾電池の回収ボックスを設置する案が検討されている。また、9つの環境啓発活動が実施され5千人が参加した。

ハバロフスク地方では、130の学校で「環境」の授業が必須科目となっている。

これらのすべての対策は、環境や人間に与える負の影響を削減する。

環境の安全性を確保するためには、北東アジア地域に位置しているすべての国々の協力が必要である。今の世代だけではなく、次の世代のためにも健全な環境を残さなければいけない。